

作品目録 | 2016年度 第4期テーマ作品展 No.48

[会期] 2017年2月2日(木) — 4月9日(日)



2. 緑溪

1F
展示室

群青と緑青の風景

作品名	原画制作年 ※は制作年	寸法(cm)	材質・技法	取材地
1 道	みち 1950 (昭和25)	61.0×46.5	リトグラフ	青森県八戸市、種差海岸
2 緑溪	りょくけい 1952 (昭和27) ※	53.3×66.3	麻布彩色	長野県茅野市、蓼科高原
3 たにま	たにま 1953 (昭和28)	47.8×37.8	木版画	長野県、野沢温泉村
4 朝静	あさせい 1964 (昭和39)	45.4×61.2	リトグラフ	スウェーデン、オンゲルマンエルヴ河
5 青い峡	あおいたに 1964-66 (昭和39-41)頃	36.6×37.6	木版画	京都市、周山街道
6 満ち来る潮	みちくるうしほ 1970 (昭和45)	26.0×55.0	木版画	
7 白馬の森	はくばのもり 1972 (昭和47)	41.5×60.5	リトグラフ	富士山五合目のブナ原生林
8 緑の溪	みどりのたに 1973 (昭和48)	33.0×46.1	リトグラフ	
9 夕静寂	ゆふせいじゃく 1974 (昭和49)	57.0×40.0	リトグラフ	長野-岐阜県、奥穂高
10 谿若葉	たにわかば 1976 (昭和51)	35.1×45.5	木版画	長野県山ノ内町、志賀高原
11 山嶺湧雲	さんれいゆううん 1977 (昭和52)	110.3×151.5	リトグラフ	長野-岐阜県、奥穂高
12 灘江月明	りこうげつめい 1978 (昭和53)	30.3×43.0	木版画	中国、桂林
13 緑の詩	みどりのうた 1983 (昭和58)	33.0×65.0	リトグラフ	
14 山霊	さんれい 1987 (昭和62)	36.0×53.0	リトグラフ	長野-岐阜県、安房峠
15 春愁	しゅんしゅう 1995 (平成7)	49.5×60.5	リトグラフ	奈良県、吉野
16 月光	げっこう 1998 (平成10) ※	64.8×92.3	麻布彩色	山形県山形市、蔵王

目録番号は、陳列の順序と必ずしも一致しません。

東山 魁夷
HIGASHIYAMA KAI

略年表

- 1908 (明治41) 7月8日、横浜市生まれ。1911年、神戸市に転居。本名「新吉」は、坂出市榎石島出身の祖父の名をもらったもの。
- 1926 (大正15/昭和元) 18歳 東京美術学校(現・東京藝術大学)日本画科入学。
- 1931 (昭和6) 23歳 東京美術学校研究科に進み、結城素明に師事。雅号を「魁夷」とする。
- 1933 (昭和8) 25歳 東京美術学校研究科修了。8月渡欧しベルリン大学でドイツ語を学ぶ。
- 1934 (昭和9) 26歳 第一回日独交換留学生に選ばれ、ベルリン大学哲学科美術史学部入学。
- 1935 (昭和10) 27歳 父の病気の知らせを受け、留学期間1年を残して帰国。
- 1945 (昭和20) 37歳 召集をうけ熊本に配属。終戦後、千葉県市川市に移って制作を再開。
- 1947 (昭和22) 39歳 第3回日展に出品した《残照》が特選を受賞、風景画家として立つことを決意。
- 1950 (昭和25) 42歳 第6回日展に《道》を出品、好評を得る。
- 1953 (昭和28) 45歳 第9回日展に《たにま》を出品。
- 1956 (昭和31) 48歳 日本芸術院賞を受賞。
- 1959 (昭和34) 51歳 第2回新日展に、榎石島を描いた《暮潮》を出品。
- 1962 (昭和37) 54歳 4~7月まで北欧4カ国を写生旅行。
- 1968 (昭和43) 60歳 皇居宮殿壁画《朝明けの潮》完成。「朝明けの潮/京洛四季」展開催。
- 1969 (昭和44) 61歳 4~9月までドイツ、オーストリアを旅行。文化勲章受章、文化功労者に選ばれる。
- 1973 (昭和48) 65歳 「白い馬の見える風景」展開催。
- 1974 (昭和49) 66歳 改組第6回日展に《夕静寂》を出品。
- 1975 (昭和50) 67歳 唐招提寺御影堂の第一期障壁画《山雲》《濤声》を奉納。
- 1980 (昭和55) 72歳 唐招提寺御影堂第二期障壁画の三題《黄山曉雲》《桂林月宵》を奉納。
- 1998 (平成10) 90歳 第30回日展に《月光》を出品、最後の日展出品作となる。
- 1999 (平成11) 5月6日、逝去(90歳)。

2F
展示室

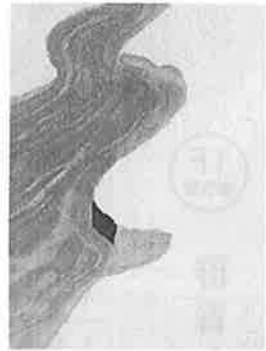
表紙絵 12カ月
季節のいろ・言葉のかたち

作品名	原制作年	寸法 (cm)	技法
1 季の詩(1月)	とぎのうた (雑誌「新潮」表紙絵) 1954 (昭和29)	各24.0×16.5	リトグラフ
2 季の詩(2月)			
3 季の詩(3月)			
4 季の詩(4月)			
5 季の詩(5月)			
6 季の詩(6月)			
7 季の詩(7月)			
8 季の詩(8月)			
9 季の詩(9月)			
10 季の詩(10月)			
11 季の詩(11月)			
12 季の詩(12月)			
13 夢の詩(1月)	ゆめのうた (雑誌「新潮」表紙絵) 1955 (昭和30)	各24.0×16.2	リトグラフ
14 夢の詩(2月)			
15 夢の詩(3月)			
16 夢の詩(4月)			
17 夢の詩(5月)			
18 夢の詩(6月)			
19 夢の詩(7月)			
20 夢の詩(8月)			
21 夢の詩(9月)			
22 夢の詩(10月)			
23 夢の詩(11月)			
24 夢の詩(12月)			

以前から季節と題する十二月の連作を試みたいと思つてゐた。季節感によるイメージだけでなく、自然から受ける現実的な感銘を基盤にして、単純化された色彩と形態で表現したいと考へた。丁度新潮からの依頼があつたので今年一年間の表紙でそれをやってみることにした。

一月は雪と流れで、雪の白と流れの群青と金の古典的な色彩によつてゐる。灰色と黒色の石を少し見せたのは、色彩を中和させる爲と、新潮の題字の黒に対照させるためのものである。

雑誌「新潮」昭和29年1月号「表紙に寄せて 東山魁夷」より



今年も引き続き表紙を描くことになった。毎月の表紙に、一年を単位として、一貫したテーマを持ちたいと考へてゐるので、今年も格言の繪畫化を探り上げてみた。格言や俚諺と云ふと、いかにも古めかしいが、そこから浮かんでくるイメージを繪畫として定著してみると、案外新鮮な畫面になり、常識的でない構成を生む場合がある。

今月はまづ最初に、Fine feathers make fine birds.「羽根美しければ美しい鳥」を選んだ。諺の意味から云へば、馬子にも衣裳式のあまりかんばしいものでもないが、言葉から受ける感じが明るくて華麗なので、これを新年號の表紙にした。

雑誌「新潮」昭和30年1月号「表紙に寄せて 東山魁夷」より



版画の豆知識

▶ 版画はさまざまな版の形式と技法がありますが、木、金属、石、絹といった版材でつくる版形式は大きく4つに分類できます。

木版画 (凸版: とつはん)



浮世絵などで伝統的に用いられてきた技法。木の板を彫刻刀などの刃物で削り、デコボコを作ります。凸(トツ)の部分に絵具を塗り、紙をのせて圧力をかけて摺ります。凸の部分に塗った色だけが紙に写し取られます。

銅版画 (凹版: おうはん)



木版画とは逆に、銅板に鋭利な刃物でキズをつけ、凹(オウ)の部分にインクを詰め、紙をのせて圧力をかけて凹(オウ)の部分のインクを刷り取ります。銅板を直接削って描画する「直接法」と、酸溶液に浸けて銅を腐食させることによって凹みをつくる「腐蝕法(エッチング)」があります。

リトグラフ (平版: へいはん)



表面を平らに磨いた石灰石(石板)の上にクレヨンや油性のインキなどで直接描き、その上に弱酸性溶液を塗ると、化学反応によって描かれた部分は油分を引き付け、描かれない部分は水分を保持するという、油が水をはじく原理を利用した技法。作画した部分にだけインクがつくよう加工し、その上に紙をのせてプレス機で刷ります。

シルクスクリーン、セリグラフ (孔版: こうはん)



一枚の厚紙に適当な形の孔をあけ、その下に一枚の紙を置き厚紙の上から顔料を刷り込むと、顔料が孔を通り、その孔の形をそのまま下の紙にうつし取ることができます。この単純な原理から出発したのが孔版と呼ばれる版形式です。

▶ 版画の余白部分には何らかの記号が記され、それぞれに意味があります。

・「○/▲」 ○と▲には数字が入ります (例「54/250」)
数字はエディションナンバーといい、分母(▲)は発行部数、分子(○)は通し番号を意味します。

・E.A. = épreuve d'artiste (仏) 作家保存用

・A.P. = artist's proof (英) 作家保存用

・H.C. = hors commerce (仏) 非商業用つまり作家や工房の保存用

当館所蔵の版画作品は東山魁夷が所有していた保存版で、ほとんどの作品がE.A.と記されています。

お知らせ



展示室にて、
当館学芸員による
作品解説を行います。
午前11時~11時30分
(観覧券必要)

・2月4日(土)・2月18日(土)
・3月4日(土)・3月18日(土)
・4月1日(土)



瀬戸内海を一望できるラウンジで、楽しくお茶を飲みながら学芸員と美術のお話をしませんか。

・2月7日(火) お話のテーマ
「ちょっと知りたい美術のはなし ① 東洋の中の日本画」
・2月21日(火) お話のテーマ
「ちょっと知りたい美術のはなし ② 風景発見！」
10:30~11:30(10:15から受付)
◎会場 香川県立東山魁夷せとうち美術館 1階カフェ
◎お話 窪美西 嘉子(当館専門学芸員)
◎定員 各実施日に10名(要申込み・先着順)

★要申込み
★参加費500円(お抹茶とお菓子代)
※コーヒーまたは紅茶とお菓子の場合は550円
※展覧会の鑑賞(入館料)は含まれません
※詳しくは美術館までお問い合わせください
申し込み方法
★電話かFAXで、以下の項目をお知らせください
(定員になり次第締め切ります)
①参加者氏名
②連絡先(電話番号かFAX番号)
③参加希望日



香川県立
東山魁夷せとうち美術館
Kagawa Prefectural Higashiyama Kai Setouchi Art Museum

〒762-0066 香川県坂出市沙弥島字南通224-13
Tel 0877-44-1333 Fax 0877-44-0220
http://www.pref.kagawa.lg.jp/higashiyama/